

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和 3年 3月26日

グループ名	泰明小学校校内研究会	フリガナ 代表者氏名	ウキツ 浮津 タケフミ 健史
学校名 (代表者)	中央区立泰明小学校 (浮津 健史)	電話番号	03-3571-1765
研究テーマ	体育的身体活動を通した心の教育		
研究期間	令和2年4月1日 から 令和3年2月28日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業を通しての研究を進めた。 ・ 今年度は、研究授業の授業日の設定はなしとして、年間5回の研究授業日の日程は、休校中の授業補充に充てた。 ・ 常時活動、通常授業において、休校に伴う児童の体力低下を回復させる授業内容や活動の考案、感染症対策を意識した常時活動、授業作りの考案を展開した。 ・ 昨年度からの研究主題「体育的身体活動を通した心の教育～よりよく自分を高め、仲間と豊かにかかわり合えることをめざして～」を今年度の状況下でどのように生かせるか、検討した。 ・ 中止した運動会に代わり、「体育学習発表会」を学年ごとに開催し、研究サブテーマの「仲間や友達とのかかわり合い」の活動を、感染防止対策を踏まえて、直接言葉を掛け合う以外に、授業前後にカードの掲示による交流したり、新規に導入されたタブレット端末による撮影済みの動画を視聴し分析し合ったりした。 ・ どの学年でも友達の良さを見付けたり、よくできていたことをたたえ合ったり、指摘し参考にしようとしたりすることができて、自身の各体育的運動の向上に生かそうとする姿が見られた。 ・ 児童によっては、必ずしも自身の体育的活動に生かそうとしたり、まねをしようとしたりするところまでは届かないという状況も見られた。 ・ 体育学習発表会は、どの学年も学年の児童の実態に合わせつつ、伝統を引き継ぐ学年もあれば、独自に演目を開発することなどの工夫もこらし、大成功であった。 ・ コロナ禍にあって、児童の体力の低下が懸念されたが、本校児童の体力は、全国平均などと比較で算出されるTスコアで平均の50を上回る学年、種目が多く、大幅な体力の低下は認められなかった。特に20mシャトルランなどに見られる持久力の状況などについては、本校の「泰明マラソン」の大会を中止した中であっても、体力の低下を予防するために取り組んだ「マラソン」「なわとび」などの取り組みが功を奏したと思われる。 ・ ただし、塾通いなどが始まる、4、5、6年生の男子などでは、急激な運動の総量の低下により、いくつかの種目で下降傾向が見られた。6年生の男子は、5年次よりも数値が下がった。女子の5年生の投運動は伸び悩んだ。 		
その他 特記事項			

(参加児童の言葉) Aさんは、モンキーのところがよかったです。ぐるぐるしているところはげんきよくてよかったですので、わたしはとちゅう、はくしゅをしました。

(考察) 友達の技を見て、それぞれの視点で友達のよいところを見付けることができた。見合うことで、学習意欲を高めたりポイントの意識付けをしたりすることができ、互いに集中して取り組むことができた。

(参加児童の言葉) へいきんだいこそすで、Bさんがやった、ぐるぐるしながららんすをしていたことは、けっこうむずかしかったけど、たのしかったです。

(参加児童の言葉) Cさんがへいきんだいでけんけんでいって、おもしろそうだったから、まねをしました。

(考察) 友達の良いところを見つけて、「それを真似てやってみよう」「がんばりたい」と意欲を高め、自身の動きを工夫する児童がいた。

(参加児童の言葉) Dせんせいが、またぎコースをやって、さいごにとびのりコースで見本をおしえてくれたのがさんがへいきんだいでけんけんでいって、おもしろそうだったから、まねをしました。またやりたいです。

(考察) 教師、友達からの助言、教師・体育指導補助員の手本や補助等での関わりの中で、少しずつ技能が上達していくことを感じ、次時以降も技能向上への意欲を高めることができた。

(取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見つけた課題など)

学習の中で、自分の技だけでなく友達の技にも目を向けることによって、意欲的に良いところを見付けようとする児童が多く見られた。ワークシートにも友達のいいところを書けるようになってきている。授業の合間にも、発見した友達の良さを知らせたり、実際に伝えたりする児童も増えてきた。授業の振り返り等で友達の良さを発表することで、名前が挙がった児童にとっても自信となっていた。

課題と感じた1つ目は、褒めている内容である。まだ、「上手だった」「がんばっていた」等の抽象的な言葉で表現する児童も多く見られた。そのために、動きのポイントを十分に押さえて友達と見合う活動に取り組ませたり、手本となる児童の褒めている内容を共有したりする。また、良いところをワークシートに書いているが、十分に相手に伝えられていないため、授業中に助言をしたりほめたりすることを意識付けしていく。

2つ目は、相手のよかった点を自分の動きに活かしてみることが十分ではない。今回の分析ではまだ少数にとどまっている。友達との関わりを通して「自分もやってみよう」と自分の動きの改善に繋げられるようにしていく。

2年

<p>わたしは、Aさんに「ふみきりばんのところを『バン』と音が出るように強く踏むと、きれいに跳べるよ」と教えてもらいました。わたしはどうしても「トン、パッ、トン」のリズムがとれなかったけど、Aさんのアドバイスのおかげでできるようになりました。</p>	<p>わたしは、Fさんの着地の足がバラバラだったので「そろえるといいよ。」とアドバイスしました。そしたら、着地が上手になっていました。Fさんが「ありがとう。」と言ってくれたので、アドバイスしてよかったなと思いました。</p>	<p>わたしは、蹴るのが苦手だけれど、グループのみんなが「足の内側で蹴って。」とアドバイスをくれました。そして、みんなとそのように練習していたら、できました。（試合でも）みんなのやくにも立ちたいです。</p>
<p>跳び箱運動。同じグループ同士で、アドバイスをし合う場面。自分の苦手な部分を考えて上で、友達からアドバイスをもらう。教えた児童は、自分が上手く跳んでいる理由を振り返りながら考え、自分なりの言葉で相手に伝えた。教える児童も教えられる児童も互いに自分を振り返る効果があった。</p>	<p>跳び箱運動。友達の跳び方を見て、改善できそうな部分をアドバイスしている場面。自分と友達を比べながら、どうすれば上手に跳べるのかを考えてアドバイス。自分の言葉かけが切っ掛けで友達が上手く跳べたのを見たり、感謝されたりすることで、助け合うことの良さを感じることができた。</p>	<p>ボール蹴り遊び。グループで練習計画を立てて練習する場面。互いの苦手な部分を探して、アドバイスをし合い、練習する。仲間の温かいアドバイスで、できることが増え、その中で、仲間の役に立ちたいという仲間意識、グループへの帰属意識のようなものが芽生えてきた。</p>
<p>わたしは、ボールが足に当たった時からボールがきらいになりました。でも、その時KさんやRさんたちの蹴り方を見て、「そうやるんだ。」と思って私もやってみたら上手に蹴れたので、うれしくなって、ボール蹴りが好きになりました。</p>	<p>わたしは、千本桜（のダンス）で、最初はめっちゃくちゃの踊りだったけど、Nさんの「おぼけみたいなポーズ」を真似してみたらすごいやる気がでてきて、「Nさんてそういう考え方してるんだ。」と思いました。Nさんと班が一緒でよかったです。</p>	<p>ぼくは、最初、どこが間違っているのかわかりませんでした。だけど、TさんとYさんの（タブレットで撮った）ビデオと自分のを（比べて）みて、やっとわかりました。それは着地がうまくできていなかったことです。友達のビデオを見て間違っていることが分かってよかったです。</p>
<p>ボール蹴り遊び。グループで練習を行うなかで、自然と、仲間の様子にも目が向き、上手く蹴ることができる仲間に憧れ、やり方を学ぼうとする姿が育った。仲間を見て、自分でコツを見つけ、やってみたら実際に上手くいったことが自信となり、嫌いなボール運動を好きになった。</p>	<p>体育学習発表会（表現）。友達の表現や言動を自分に取り入れた場面。Nさん独自の「おぼけみたいなポーズ」という考え方を実践し、やる気ができることに気付くだけでなく、友達の考え方を素直に受け入れることで、「そういう考え方もあるんだ」と、自分の考えを広げることができた。</p>	<p>跳び箱運動。タブレットで自分たちが跳び箱を跳ぶ様子を撮影し、互いに見合う場面。実際に、自分の跳ぶ様子を確認するだけでなく、友達の跳ぶ姿も何度も確認したり、比べ合ったりする中で出てくる言葉がそのまま自分へのアドバイスとなった。</p>

（取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見付けた課題など）

友達からのアドバイス、友達へのアドバイス、グループの仲間を見る、タブレットを使う、など様々な関わり方があるが、どれも、関わりを通して、相手への感謝や、尊敬の念、仲間意識などが芽生えたと考える。「仲間と一緒に頑張ることができる。」と感想シートに書く児童もおり、技能向上への効果の他、普段の生活の関わり方にも影響していると感じる。また、アドバイスをしあう際には、あらかじめ、見る観点を示しておくことで、何をアドバイスすればよいのかという、焦点の合ったアドバイスができた。アドバイスを受けて、それを実践しているときには、応援や感謝などの言葉が出た際に、その場で褒めることで「してよかった」との思いや、相手のよさを見つけようとする意識が出てくると感じる。タブレットの動画機能は、自分の姿を見る、自分のペースで繰り返し見られる、友達と比較する、友達に説明しやすくなるなどの良さがあると考える。

3年

<p>T君がぼくに、「エイサー上手だね」と言ってくれてうれしかった。「ありがとう。」という気持ちで踊った。リーダーになって、グループの友達にアドバイスをしてその友達がどんどん上手になっていくのがうれしかった。</p>	<p>友達が、ダンスリーダーになったときに「よかったね。」と言ってくれたり、最初のおどりの足を合わせられなかったときに教えてくれたりした。「たくさん声出そうね。」と言った。</p>	<p>ぼくが、なかなか踊りを覚えられず、Mさんがダンスリーダーになってくれたとき、とんでいっしょに踊ってくれてうれしかった。ぼくの苦手なふりつけの部分、わかりやすく教えてくれた。</p>
<p>・Hさんに「もうちょっと腰を落として踊ると良いよ」と言われて、腰を落として踊ったら、いつもより良い踊り方になった。 ・Kさんが、「腕を回してみたら良い」と言ってくれたので腕を回してみたら踊りが大きくなった。</p>	<p>Oさんに、「スピードが速すぎるからゆっくりにしたほうが良いよ」と言われて、気をつけようと思った。できたら、ほめてくれると元気になった。</p>	<p>最初は、手を回して腰を落ろすところが難しくて、Hさんに聞いたなら真剣に教えてくれて、「上手になったね。」と言ってもらえた。うれしかった。</p>
<p>・ぼくは、上手な友達を目標にして頑張った。あまり強く太鼓を叩いていなかったの、友達のように強く叩くようにがんばった。友達にも教えてもらった。何度もやっていると、だんだんできるようになった。嬉しかった。</p>	<p>・上手にできる友達は、最初の振り付けの時に下からくるくろばちバチを動かすけれど、私はいつも上からやるクセがついていた。友達が、「反対だよ！」と声をかけてくれた。その時の自分は、まだ反対だと気付いていなかったの、教えてもらってよかった。</p>	<p>・ぼくは、「海の声」の掛け声で、よくできる友達に「もっと声を大きく！」と言われたので、本番では、大きな声を出せてよかった。ダンスリーダーの友達にも、「左右を間違えないようにね。」と教えてもらい、気を付けて踊ることができた。</p>
<p>・ぼくは、周りを見ないでとにかく集中して踊れるように努力した。リハーサルでは、みんなとダンスリーダーになった友達を中心に頑張った。心を一つに踊ることを目標に頑張った。友達と教え合い、みんなと頑張ることができてよかった。</p>	<p>・ダンスリーダーを務めた。みんなの様子を見ると、ダンスが苦手な子がいた。それでも一生懸命踊ろうとしている姿を見て、「とてもえらいな！」と思った。分からないことを聞かれたら教えた。リハーサルや本番の時の映像を見ると、とても上手に踊っていた。太鼓の音もそろっていたので、やはり何でも一生懸命やればできるのだと思った。</p>	<p>・ぼくは、上手な友達の姿を目標に練習を頑張った。一つ目は、その友達が自信をもって掛け声を出していたので、ぼくもだんだんとリハーサルに向けて、どこでどんな掛け声をするか覚えてきた。上手にできるようになった。二つ目は、腰を低く踊ること。その友達は、身長が高く、足が長いのに低くして足をしっかり曲げているので、すごいと思った。自分も頑張ることができた。</p>

(取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見つけた課題など)

友達からのアドバイスや声かけを中心にまとめた。ダンスのリーダーを決めて、リーダーが中心に声をかけ合ったり、お互いのクラスを見合って感想を伝え合ったりするなど、友達を良い意味で意識しながらエイサーの踊りに取り組めたと感じた。

リーダー役の子が他児童の様子を気にかけたり、進んで声を掛けたりしていた。左右の動きや、手先の使い方・形などの技能面における働きかけが具体的であった。児童相互の関わり合いで技能面を高めていけたことがよいと感じた。

メンタル的な声かけは、相手の気持ちに寄り添ったものが多かった。中心的な児童を手本として、またその児童を自分自身の目標として、努力していた様子も伺えた。目標とするからこそ、自然と関わり合いが発生していた。全体を通して、友達同士で切磋琢磨し合う姿が印象的だった。

4年

<p>つばめに取り組んでいるときに、友達が「がんばれ！」や「いけるよ！」とおうえんしてくれていたのがうれしかったです。</p>	<p>〇〇さんのひざかけふり上がりのひざをおすサポートができて、〇〇さんに「ひざにグッと力を入れておして。」とアドバイスをもらいました。そしたら、少しおいしいところまでできました。</p>	<p>かかえこみ回りで「いきおいよく前にたおす」ことをめあてとして気を付けてやっただけけれど、やっぱり勢いが足りなかったです。今回かかえこみ回りで「ギリギリまで前に立つ人を見て」とサポートができたので、よかったです。〇〇さんも同じことをしてくれたので、できそうでした。</p>
<p>鉄棒運動。ペアもしくはトリオで、アドバイスをし合う場面。単元前半だったので、低学年で学習してきたことを行い、情意面でのアドバイスをもらっていた。</p>	<p>鉄棒運動。鉄棒運動の学習カード（技のポイント）を活用しながら、自分の課題点、もしくは改善できそうな点を互いに見合い、アドバイスしている場面。技のポイントを意識して、どうすれば上がるのかをタブレットを活用しながら、具体的に教え合うことの良さを感じることができた。</p>	<p>鉄棒運動。かかえこみ回りをペア、もしくはトリオで練習する場面。挑戦している技が同じこともあり、助言し合う際も、技のポイントやどこに気を付けて行うべきかが非常に明確で、お互いに高め合うことの良さにふれられたように考える。同じ技に取り組み、学習し合っていたことが良かった。</p>
<p>ボールを友達にあげるときは、「ふんわり」と「軽く」あげることを意識して、渡す人が打ちやすいようにするとよいことをチームみんなで考えることができた。</p>	<p>友達に「上げるボールを高くしてほしい」「もうちょっと高く上げて。」と言われました。それで得点をとったとき、ありがとうとうれしい気分になりました。</p>	<p>私は、サーブが前よりも打てるようになり、自分から初めてやりたいという気持ちがありました。友達がタブレットでサーブするところをとってもらい、ボールを最後まで見ていないところと、打つ角度を考えてサーブするとよいことが分かって、良かったです。</p>
<p>キャッチバレーボール。ゲームや練習を行うなかで、なかなかチームとしてつながりなかった場面。どうしてつながりなかったのかを考え始め、自然と仲間や相手チームのプレーにも目が向くようになった。自分たちでコツを見つけ、やってみたら実際に上手くいったことで、自信につながった。</p>	<p>キャッチバレーボール。相手コートにボールを打ち返すことができない中で、友達の言動を自分に取り入れた場面。友達がどういうプレーをしたいのかを理解できなかった中、助言を受けて実践してみたら、相手コートに返せ、かつチームの得点につながったことは楽しむ契機となった。</p>	<p>キャッチバレーボール。タブレットでサーブがうまくいかないところを撮影し、助言し合う場面。実際に、うまくいかないサーブと上手に入るサーブとを確認したり、比べ合ったりする中で友達から出てくる言葉が、そのまま自分へのアドバイスとなった。</p>

（取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見つけた課題など）

初めは情意面での関わりが多いように感じたが、技のポイントカードを活用することで、目を向けるポイントを児童が理解し、助言し合えるようになると、関わりが増えていったと考えられる。そして、関わりが増えていったことで、個人やチームとしてこうするともっと良くなるという具体的な声掛けが見られるようになってきたことが成果として挙げられる。

また、タブレットを活用したことで、友達からの助言だけでなく、客観的な動きを自分で見る（友達の動きと見比べる）ことにより、できていたところ、課題となるところに自分たちで気づき、改善していこうとする姿が見られたことは良かったように考える。「できなかったことができるようになる」というのは、児童の学習意欲を高める上で、極めて効果的であると感じたので、他の単元であっても考えていきたい。

(参加児童の意見) 私は、マットが苦手です。後転・側転・倒立…たくさんためしましたが、じょうずにできず、どうしようと悩んでいました。そのとき、Aさんたちが励ましてくれたり、練習のアドバイスをしてくれたりして、応援してくれて、先生たちからも「上手になってる」と、ほめてもらえるまでになりました。これからも練習したいです。

(考察) 友達から励ましやアドバイスをもらったり、担任が賞賛したりすることによって児童の学習意欲が高まったと考えられる。

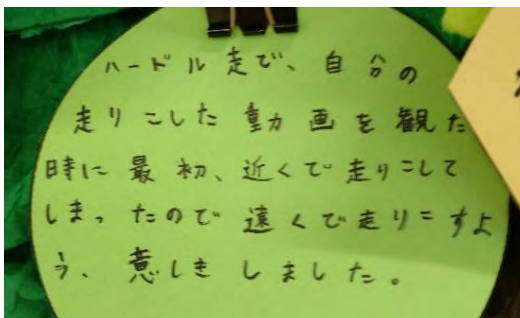
(参加児童の意見) Bさんがハードル走をするときの姿勢がとてもきれいでした。

- ・足の裏が見えていた。
- ・足を横から出せていた。
- ・遠くからとべていた。

以上の理由からよいと思いました。

(考察) 友達のよかった点をあげていることから自分のことだけでなく、周りのことにも意識が向いていると考えられる。また児童自身が運動のポイントを理解して取り組んでいることがうかがえる。

(参加児童の意見) ハードル走で、自分の走りこした動画を見たときに、最初、近くで走りこしてしまったので、遠くで走りこすように意識しました。



(考察) 友達からのアドバイスも学習意欲につながるが、タブレットを使い自身の動きを客観的に見ることで、課題をはっきりさせることができたと考えられる。また、授業時間内だけでなく、教室で見合ったりすることで友達のよいところや課題を話し合うことができた。

(取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見付けた課題など)

「話し合い」や「教え合い」、「友達のよいところ探し」を授業に取り入れていくことによって、仲間を尊重するなどの意識が高まり、「自分のアドバイスを聞いてくれた」「ほめられて自信がもてた」など、友達と話すことに対する自信や安心感が生まれ、学習の質の高まりにもつながることがわかった。

体育学習において、「話し合い」や「教え合い」、「友達のよいところ探し」などの活動を通じて言語活動を充実させることは、安心して学習することができるなど、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことにもつながり、体育科の目標でもある「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」いわゆる「生涯体育・生涯スポーツの育成」につながることを考えられる。

タブレットを活用した指導により、運動のポイントや自分の動きを視覚的に把握することで、児童も動きをイメージしながら運動に取り組むことができるようになった。映像を活用することでポイントとなる部分のみを再生することができ、技能ポイントを押さえた指導を充実させることができた。映像を介したことで、児童同士の教え合いを活性化させることができた。課題として映像を活用する上で、技ができていないかを判断した上で「どのように工夫すればよいか」までを考えさせるためには、「見合う視点の指導」と「助言方法の指導」を並行して行う必要があると感じた。

(写真または子どもの声)

ぼくが馬になってAさんが乗るときに、いつもかけ声を忘れないで言ってくれて、ぼくが背中の上に乗らないでと言ったとき、(これは僕が背中を痛めていたため)お願い通りに指定の場所を避けて乗ってくれたことがとてもありがたかったです。

(考 察 ・ 分 析)

技を始めるタイミングを図るための「合図」や、乗られては困る場所などについての話がうまく通じており、馬を組むペアとしてのコミュニケーションがよくとれていることが分かる。
相手への感謝も忘れていない。

(考察・分析) 馬が乗るための土台として のタイミングの合わせ方、背中姿勢の保ち方など、技能面での良さも取り上げられて、仲間に感謝の気持ちを伝えることもできた。

(考察・分析) 自分に対しかけられた感謝を受け止めるだけでなく、そう感謝しながらもこちらに対しての気遣いや配慮に気づき、こちらからも、感謝の気持ちを伝えることができているケース。

(写真または子どもの声)

背中をきちんと平らにしてくれて、また声をかけたり、降りた後に、背中についてしまったゴミをとったりしてくれてお互いにやりやすかったです。

(考 察 ・ 分 析)

ハンドクラップで手をクラップさせる際の姿勢やウェーブの腕の動き、一人技「肩倒立」の姿勢など、各技の技能面の良さを的確に捉え、感想を述べられている。

(考 察 ・ 分 析)

二人技の馬を作り上げたことだけではなく、乗り終わった後に衣服を整えてもらった気遣いなどにも感謝の気持ちを伝えられている。

(考 察 ・ 分 析)

ダンスの上手さの根拠を「丁寧さ」「ダイナミックさ」としてとらえて賞賛し、集団行動として光っている点にも着目することができている。

(取り組みを通じてわかったこと・感じたこと、見つけた課題など)

学年集団としての本学年の中には、なかなか活動に真剣に取り組みきれない児童が一部いるが、そのことは、コミュニケーションの取り方に難があったり、体の大きさのわりに心が育ちきれていない幼さの残ること(独りよがり、自己中心的など)に要因がある。また、そのような児童が目立つ学年集団でもあるが、今回の取り組みでは、コロナ禍であるにもかかわらず、担任があえて泰明の組体操の伝統を部分的に残したことの真意とねらいを確実に受け止めている児童が見られた点が収穫であった。技能面での自己分析や他者分析を自分の演技によりよく生かそうとする児童がいたのはもとより、組体操で友達や仲間と実際に「組む」ことで、組む前の声かけ、組んだ後のねぎらいの言葉、衣服を直してくれる行為への気づき、そして相手への「感謝」の気持ちが述べられている点はよい。一方、友達を意識しすぎるあまり、書き初め展示会の際の「お手紙書き」のような、「付き合い」で書くカードが一部に見られた。技能面で友達の取り組みをややもち上げすぎてほめたカード、よいことを互いに書きあうことを約束し合ったようなカードなどがそれにあたる。お互いの技能やかかわり合い方をより高め合うための取り組みというねらいに、もう一歩更に迫る手立てが今後求められるということもまた分かった。